

10月1日は 国勢調査の実施日です

調査票への記入・提出をよろしくお願いします。



日本の今を知り、広野町の今を知る
日本、広野町の未来をつくるための調査です。



**調査票への記入・提出
または提出の準備は
できましたか？**

国勢調査は、日本の人口や世帯の実態を明らかにするために、5年ごとに実施する重要な統計調査です。住民票の届け出とは関係なく10月1日現在に住んでいる場所で調査します。特に今回の調査は、日本が本格的な人口減少社会になって実施する最初の調査であり、少子高齢化や就業・雇用実態などを明らかにし、わが国が直面している重要課題に対する施策に活用するための重要なデータとなります。

お問い合わせ
企画グループ
☎27-2114



ふるさと盆踊り



鮎つかみ大会

かてたくましい人材育成を図ることを目的に、小学生高学年から中学生の24人の参加者を得て「自然体験学習事業」を実施しました。また、8月22日

河川、海岸、ため池等の清掃作業をしていただきましたことに対し、衷心より御礼を申し上げます。
次に産業グループ関係事業につきまして、8月12日に夏真を彩る「2010サマーフェスティバル」が、二ツ沼総合公園内で開催されました。当日は、日本海を北東に進む台風が東北地方に近づき大変心配されましたが、多彩なイベントが繰り広げられ、夏のひとときを楽しむことができました。ステージでは昨年に引き続き、町内出身の女性ロックバンドの演奏などが披露され、多くの方から声援が送られました。また、今年度のボランティア活動では、明星大学の学生に協力を得て、ゴミの分別PRや会場内のゴミのポイ捨ての解消に努めました。ご協賛をいただきました各種団体企業、個人の皆さまや実行委員の方々の多大なるご支援ご協力に衷心より厚く御礼を申し上げます。
また、8月15日には、広野駅前・商

店街活性化事業実行委員会の主催による「ふるさと盆踊り」がJR広野駅前で開催されました。
踊りに先立ち、広野町昇龍太鼓による和太鼓の演奏で会場を盛り上げ、盆踊りの参加者には抽選会も行われました。夕暮れとともに浴衣姿などのたくさんの来場者が、やぐら太鼓に合わせ踊りの輪を広げました。
教育グループ関係事業
まず外国語指導助手の異動についてご報告します。
一昨年から指導を頂いていた外国語指導助手のアリアン・ウィリアムス先生は、契約期間が満了して帰国され、8月2日に新たな外国語指導助手としてアメリカ合衆国オレゴン州出身のアン・キャスマン先生を迎え契約を締結し、前任者同様、中学校を中心に小学校・公民館でも指導をお願いします。

には子ども会の恒例行事となっている「鮎つかみ大会」を「浅見川ゆめ会議」との共催により実施し、大盛況のもとに終了することができました。
次に社会体育事業として、6月27日栖葉町において、今年度で第48回目を迎える「双葉郡総合体育大会」の球技部門の大会が先駆けて開催され、本町は野球・家庭バレーボール・グラウンドゴルフの3種目に出場し、熱戦を繰り広げました。
また、8月8日には本町を会場として第63回県民スポーツ相双地域大会が開催され、本町は壮年ソフトボール・バドミントン・家庭バレーボールの3種目に出場し、バドミントンが2位、壮年ソフトボールが3位と好成績を収め終了することができました。

■平成21年度決算概要

一般会計をはじめ各特別会計とも厳しい財政状況の中、徹底した経費の節減と合理化を図るとともに、それぞれの目的に沿った効率的な事業の執行に努めて参りました。
その結果、一般会計の決算総額は、歳入では39億5,443万3千円、対前年度比7.6パーセントのプラス、歳出では37億702万2千円、対前年度比7.5パーセントのプラスとなっています。歳入歳出差引額は2億4,741万1千円、翌年度への繰り越し額を差し引いた実質収支額は2億781万円の黒字となりました。また財政調整基金への積立金や、取り崩し額

補正予算案

まず、22年度一般会計補正予算案につきましては、歳入の主なものには電力移出等交付金、電源立地促進対策交付金や普通交付税、および決算剰余金、特別会計からの繰入金などの計上です。歳出の主なものについては、農産物加工施設整備事業や集落活性化事業、地上デジタル放送対策として電波遮へい対策事業、さらには町道下見川線整備事業や高秋・田中線整備事業など、また、小規模宅地造成事業の財源として繰出金の計上をいたしました。その結果、一般会計補正予算の総額は2億1,673万2千円の増額となり、本年度予算の総額は37億1,902万2千円となります。
次に22年度特別会計補正予算案につきましては、それぞれの目的に沿った事業を実施するための経費を計上しました。

を加減した「実質単年度収支額」は3億1,969万1千円の赤字となっています。これは財政調整基金の取り崩しを行ったことによるものです。
また、7特別会計の決算総額は、歳入では12億3,626万1千円、対前年度比5.7パーセントのマイナス、歳出では11億8,547万9千円、対前年度比6.5パーセントのマイナスで、歳入歳出ともマイナスとなっていますが、これは主として後期高齢者医療制度への移行により老人保健特別会計の減によるものです。